

第 1 学年 道徳科学習指導案

指導者 丹波市立青垣中学校

- 1 日 時 令和 6 年 11 月 12 日（火） 第 5 校時
- 2 場所・学級 丹波市立青垣中学校 1 年各教室 1 組 29 名 2 組 28 名
- 3 主 題 名 人権を考えた生き方について
内容項目 C-11【公正、公平、社会正義】
- 4 ねらい 実際に起きた人権問題を通して、正しく理解し対応していくことでこれからの生き方につなげていく。
- 5 教材 「夏の甲子園 京都国際高校優勝」
- 6 主題設定の理由

本学年は、発表も積極的に行うなど日頃から明るく楽しく元気な雰囲気の中、学校生活を送ることができる。一方で幼い言動も多く、守るべきことやめざす目標は分かっているものの自分事として捉えられず、自らの行動等へつなげることが苦手である。人のミスには厳しく当たるものの自分には甘く対応しがちである。入学から半年以上が経ち、授業や行事等を通して集団意識や対人関係に精神的な成長が見られる生徒が少しずつ増えてきているものの、まだ十分とは言えない。

「新入生」から次第に「新 2 年生」と扱われる時期にさしかかっている。自分の発言に責任をもつ意識を高めていきたい。また多様な価値観を理解しつつ、お互いに成長を促しあう学校生活を送れるようにしたいと考える。

本時の題材は、最近のニュースを扱う。特に人権侵害が多く見られる場面として SNS が関係するものが挙げられる。実際に起きた出来事を扱うことで生徒の興味関心を高めるとともに、差別や人権侵害が現在さまざまな場面で身近におきていることを気付かせたい。また多様な価値観を大切にする一方で、その中には相手を傷つけてしまう言動（価値観）もあることにも気付かせ、多様な価値観にも人権尊重と反差別の視点をもつことをねらいとしている。本時だけで大きく成長を求めることは 1 年生には難しいと考える。現在の自分の人権感覚を知り、これから道徳の時間をはじめとする中学校生活や日頃の生活のなかで人権感覚をさらに磨いていくきっかけにしたい。

7 本時の展開

(1) 目標

- ・小学校から学んできた人権学習を基に、中学校ではより深く学んでいくきっかけにする。
- ・身近で差別や人権侵害が現在進行形で起きていることを知り、多様な価値観を理解すると同時に人権尊重、反差別の立場から、それにどう対応するかがこれからの生き方につながることに気付く。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価とその方法
1 写真スライド（優勝シーンや表彰式）をみて振り返る。	○ さまざまなシーンを思い出し、その時に感じたことなどを自由に発表させる。	
2 ネット上で最近起きた事例を例に、なぜネット上で誹謗中傷がおきたのか、考える。	○ 京都国際高校（甲子園優勝時）の映像を視聴し、感想を考えさせる（個人思考…黙って書かせる）。 ○ 考えた意見を班で伝えあう（集団思考）。各班から発表させる。 ○ その後 SNS 上で誹謗中傷があったことを伝え、どういう意図で起きたか、考えさせる（「大会に出るな」「日本語を使え」）。 ○ もしハングルではなく、英語の歌詞ならどう反応があったか、考える。 ○ 今回は歴史分野には踏み込まず、国際問題（人種差別）として捉え、今後の学習につなげる。	
3 もしあなたが誹謗中傷を聞けばどう行動できるか、考えよう。		
	○ 本当に行動にうつせるか、再度考えさせる。 ○ 自他共に大切できる言動が大切だと気付かせる。 ○ 事実を知らないことで相手を傷つけることがあることに気付かせる（「知らないことは罪」）。 ※時間があれば阿部詩（パリ五輪）さんについても紹介する。	○ 自分の意見と近い、もしくは遠い（反対意見）なのか、気付こうとしているか ○ 多様な価値観を認めつつ、ただし人を傷つける意見をどう判断すべきか、考えているか
4 行動にうつすために、何が必要か（何が足りないのか）、考えよう。		
	○ （予想）勇気、知識、雰囲気 ○ みんなで正しく学んでいくことが必要であり、大切であることを伝える。	
5 本時の授業をまとめる。 ○本時の感想を記入する	○ 軽はずみな言動が人を傷つける場合もあることを考える。 ○ 無関心とならず、正しく知ろうとすることや理解することが自分の人権も、他者の人権も守ることにつながることを伝える。 ○ どういう考えのもと、対応（行動）しようとするのか、がこれからの自分自身の生き方につながることを伝える。 ○ 道徳を中心に人権の歴史を学ぶことで正しい知識を身に付けていくことを伝える。	